

中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会
教員養成のフラッグシップ大学検討ワーキンググループ（懇談会）の主な意見

- 技術的なものではなく、Society5.0時代の教師の在り方や指導力の育成といった資質・能力の育成が重要であることを明確にすべき。
- SDGs（持続可能な開発目標）という観点も含まれるべき。
- 教員になる前に、社会のことをきちんと知るということも必要。
- 大きなパラダイム・シフトみたいなことが起こっている社会の変化やその意味を教員が理解して、子供たちに伝えることが必要。
- 研究開発的な教員養成を行う大学ができたときに、学ぶ側の学生が、そのような先端的な大学で学びたいと思えるような仕組みが必要ではないか。
- Society5.0に合ったカリキュラムや講義形態の授業を行うことも明記すべきではないか。
- 日本の教員養成モデルとしての位置付けを明示しても良いのではないか。
- 国と大学と教育委員会という三者が互いを引っ張り合って高めていくとともに、互いの主体性が確保されることが必要。
- この大学で学ぶ学生は、アクティブラーニングや個別最適化などで進んでいる諸外国の事例を学ぶことも必要ではないか。
- 期待する大学像や拠点としての意味合いを具体的に出すべきではないか。
- 義務教育段階の指導がきちんとできる力量を形成できるということが要件として含まれるべきではないか。
- 教員養成における取組のユニークさというものが大事ではないか。
- 応募要件で締めるよりも評価の部分を締めて、具体的な成果を求めることも考えられる。
- どの大学でも申請しやすいといったことが本当に必要だろうか。これほど大変なことを担わなければならない、という大学としての覚悟を問うべきではないか。全体のバランスではあるが。